



謹んで新年のお慶び申し上げます

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会



会長 芦田 昭 充

潮 騒

第 43 号
平成29年
1月 1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目五
海事センタービル
電 話 〇三・三三三三・〇六六二
F A X 〇三・三三三三・〇六八二

皆さまにおかれましては、さやかな新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

旧年中は、賛助会員、協賛会員ならびに関係者の皆さまには、当会の事業運営に多大なご支援ご協力を賜り、おかげさまでましまして事業も滞りなく実施できましたことを、あらためて厚く御礼申し上げます。

天皇陛下は、終戦から70年目の平成27年12月、82歳のお誕生日に際し、「年々、戦争を知らない世代が増加していきますが、先の戦争のことを十分に知り、考えを深めていくことが日本の将来にとって極めて大切なことと思います。」として「軍人以外に戦争によって生命にかかわる大きな犠牲を払った人々として、民間の船の船員があります。将来は外国航路の船員になることも夢見た人々が、民間の船を徴用して軍人や軍用物資などをのせる輸送船の船員として働き、敵の攻撃によって命を失いました。日本は海に囲まれ、海運国として発展していました。私も小さ

い時、船の絵葉書を見て楽しんだことがありますが、それらの船は、病院船として残った氷川丸以外は、ほとんど海に沈んだということを後に知りました。制空権がなく、輸送船を守るべき軍艦などもない状況下でも、輸送業務に携わらなければならなかった船員の気持ちを本当に痛ましく思います。今年の6月には第45回戦没・殉職船員追悼式が神奈川県戦没船員の碑の前で行われ、亡くなった船員のことを思い、供花しました。」と、先の大戦で軍に徴用された民間の船員が多数犠牲になったことについて、声を震わせながらお言葉を述べられましたことは、今も心の奥に沁みて感慨深いものがあります。

さて、戦没船員6万余人もの尊い犠牲を払った先の大戦が終結してから72年の年月が過ぎ、ご遺族は兄弟、子供、孫、甥、姪へと世代が移り、あの悲惨な戦争を体験され次世代へと語り継ぐ方々が減少し、その記憶の風化が懸念されていることから、当会は、戦争を体験された船員やご遺族の方々の体験談を広く収集し、悲惨な戦争の記憶を後世に伝え残すために取り組んでおります。

申し上げますまでもなく、当会は、志半ばで先の大戦で犠牲となられた戦没船員と、海難等で殉職された船員の慰霊顕彰と遺族援護ならびに、海洋立国の精神を高揚し、海事思想

の普及と海洋における永遠の平和を希求することであります。

今日の我が国が海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、戦没・殉職された方々の尊い犠牲とご功績のうえにあることを決して忘れてはなりません。

私たちは、二度とあのような悲惨な戦争を繰り返さないためにも、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰事業の重要性を広く国民に伝えなければなりません。

当会の事業運営は厳しさを増しております。関係団体や皆さまのご理解とご協力を賜りながら、戦没・殉職船員への思いを絶やすことなく、事業を続ける所存でございます。

お知らせ

第47回

戦没・殉職船員追悼式

日時 平成29年5月11日(木)

午前11時開式(予定)

式場 横須賀市観音崎公園

「戦没船員の碑」



絵画を熱心に見入る、来場者の皆さん

戦時徴用船遭難の記録画展 広島で開催
大久保一郎遺作展

平成28年7月15日から21日まで、広島県の広島県民文化センター（鯉城会館）で、第42回「戦時徴用船の最期 大久保一郎遺作展」を開催した。広島市や近隣県はもとより、遠方からも遺族や市民、約800人が来場し、壮絶悲惨な戦没船と船員の記録画37点と絵画のモノクロ写真12点を熱心に見入っていた。

広島での戦時徴用船遭難の記録画展は、昭和60年（1985年）福屋デパートで開催して以来、31年振り2回目の開催となった。今回の記録画展は、これまでと同

様に貴重な記録画を通して、ご遺族はじめ多くの市民の皆様が戦時徴用船乗組員の悲惨な実相をお伝えし、戦争の悲惨さを実感していただくとともに、平和の尊さを再認識してもらうことを目的に、日本殉職船員顕彰会が全国を巡回して開催している。これまで、28カ所・42回目の開催となった。

800人が来場

また今回も、大久保一郎画伯が描いた戦没船と船員の油彩画37点のほかに、油彩画のモノクロ写真12点（原画は現存しない）を展示するとともに、DVD「NHK特集・太平洋シーレーン作戦」「第45回戦没・殉職船員追悼式」を放映した。

多くの来場者を迎えるため、顕彰会のホームページや広報誌「潮騒」での周知と海事関係団体の広報誌等で開催案内を掲載していただくとともに、ポスター、リーフレットを各行政機関、海事関係団体、船社、マスコミ等に配布し事前に広報を行った。

また、広島県教育委員会・広島市教育委員会の協力をいただき、広島市の中学校、広島県内の高等学校へリーフレット等を配布し、教員、生徒への広報を行った。

また、広島市・県内の区役所、図書館、広島市観光協会、博物館等にポスターの掲示、リーフレットの配布をお願いした。



記録画展の会場となった
広島県民センター



大阪商船貨物船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に、昭和31（1956）年 67歳

大久保一郎画伯（1889—1976）

- 明治22年 大阪市富島町（現在の西区川口）で生まれる。
- 大正15年 大阪商船（現株商船三井）の嘱託画家に採用、初仕事に南米移民船「らぶらた丸」を描く。以後、同社の宣伝用絵葉書、航路案内、広報誌、ポスターの絵とデザインを担当する。
- 昭和17年 大阪商船、岡田永太郎社長の命により、同社の戦時徴用船最期の記録画を描き始め、終戦までに油彩30号約80点を制作する。
- 昭和51年 1月19日自宅にて死去、享年86歳。
- 昭和57年 旧大阪商船本社倉庫で大久保画伯の遺作37点が発見され、絵画修復家黒江光彦氏により修復。12月に東京日本橋・三越本店で第1回記録画展を開催。6日間の来場者は9000人。

記録画から受けた感動・感想

来場者のうち360人の方々からアンケートとともに記録画から受けた感想が寄せられました。その中から、来場の動機と感想の一部を紹介します。

10代の驚き

●女性（広島市）ポスターを見て

太平洋戦争は、少ししかふねがちなぼつしていなかったけど急にちんぼつがふえて、せんそうはたいへんなことを学びました。わたしはそういうせんそうが、日本だけじゃなくほかの国もこんなことがたくさんあるので、わたしはできるかぎりせんそうはやめようと思いました。だからこういうせんそうは、やめてほしいです。



吉見楓華ちゃん (小4)



広島県民文化センターでの神楽イベント
宮之庄神楽団（北広島町）の悪狐伝

●男性（広島市）中国新聞を見て

今回この企画を知ったのは、日曜日だった。もう少し早くこの企画の存在を知りたかった。だから、もう少し早く広告（の様なもの）を出すべきではないでしょうか。

今、ほとんどの人たちが知らない「戦時徴用船」について、この様な企画を開くのは、まだ、この事実を知らない人々にとっても、とても良い企画であると思う。絵だけでなく、用語解説の紙なども貼ってあって分かりやすかった。まだまだ知られてないこの悲劇的な事実を、さらに、他の人々へ知らせていただきたい。

20代の学び

●男性（広島市）NHKを見て

戦争時代の話を聞いたことはあったけど、どういう状況やどういう思いかを考えるだけで、胸が痛くなり考えられませんでした。けれど今日、絵でその状況やその思いが伝わってきました。

たまたま見たNHKのニュースで報道がありました。あまり目を向けられることが今までなかったと思われる戦時徴用船の油絵が美しく、だからこそ悲惨さが一層感じられました。私は大学生の立場で戦没学徒の慰霊祭を広島で行っており、戦没者や軍属の方々への顕彰が必要だと強く思っています。このような催しをぜひまた広島の地で行ってほしいと思います。



室田龍司くん



㊦若宮一三さん ㊦広島商船高専後輩の中村和裕さん

●女性 ポスターを見て

戦艦等の絵や写真を見ることは多かったけど、戦時徴用船を見ることはあまりなかったの、とても興味深かったです。様々な徴用船の最期を描いた作品の臨場感がすごく、各船舶の解説文にギュッとくる気持ちでした。

たまたま、三次市のみよし風土記の丘ミュージアムでポスターを見かけ、船舶が好きなので立ち寄りしましたがとても良い展示でした。

中村さん（大阪市）は、「資源の少ない日本は、太平洋戦争で国の生命線である海上輸送について、あまりにも甘い考えであったことに驚いた。」と話していた。若宮さんは、元外航船の機関長で、今回の絵画展ではスタッフとしてお手伝いいただいた。



松井佑樹さん

●女性 友人・知人・家族に聞いて
船の名前は独特で読みにくいものが多かったので、漢字が難しいもの以外もかなをふってもらえたらいいと思います。ビデオの説明がわかりやすかったです。

私は戦争を知りませんが、実際の戦争はこのまま知らないままでもいいです。

絵の中の船も人も苦痛を叫んでいるようにでした。

●男性（呉市） 中国新聞を見て
写真のように描かれている様子から、戦火を受けた民間船の無念さが伝わって来るように思う。

小学生の頃に図鑑で読み、好きになった貨物船「畿内丸」も同じように被雷沈没しているが、海運に殆どどの輸送を頼る国として忘れないでおきたいと思う。

●男性 NHKを見て
若い世代は知らないことが多く、この様な機会をもっともつと増やして頂き、興味を持つ一つのきっかけになればと思います。繰り返し返さないためには、まず過去を知ることだと思います。これからも情報を発信し

●男性 学校への案内チラシを見て
学校での平和学習で、沖繩戦時、本土に向かう住民たちが連合軍によって船を沈没させられ、たくさんの人たちが亡くなったということを知り興味を持ちました。

今まで、平和学習では原爆や空襲について重点を置いて指導していただいていたので、こういった洋上でのことも伝えていかなければならないと感じました。

30代の印象



原田陽生（小4・広島市）くんとお母さんの原田晴香さん

とても、いい絵が多かった。もっと平和にすればよかった。これからの平和を大事にしたい。（陽生）

原田陽生の母です。今日は息子とともに見ることができとても良かったです。信じがたい悲劇なのに、なぜか絵は美しく見えました。不思議な感覚をおぼえまします。それいろいろおぼえあると思いますが、これからの息子さんの方にこの絵を見てもらいたい。それぞれが何か感じて帰っていかれたら、そこから少しずつ平和の道ができていくと思います。

●女性 職場でチラシを見て
護国丸が沈みゆく後ろは、まもなく夕暮れかと思われる美しい空。月に沈みゆく船と鮮やかで明るい月、とても不思議に見えたけれど、いつもどおりの空の流れ。その下で、人間が敵だ味方だといって多くの努力、人、船、あらゆるものが失われた。人間ってどこまで馬鹿なのか。でも、炎と燃える海の中、端艇で退船した船員が「敵」である米機のクルーを助け上げる姿を見て、命が助かるか失われるかの際にあつては、もう敵だ味方だは関係ない。同じ人間同士に戻ったのだなと思った。何もなければ、歴史の闇に葬られていただろう徴用船の姿を残す決意。当時はきつとこんな絵を残すこ

40代の感想

とは許されなかっただろうに、それでもなお「描け」「分かった」と動いた大阪商船岡田社長、大久保先生、ただならぬお気持ちだっただろう。私たちは、こうしたことがあったうえに成り立っている。いま、未来をどうしていくか、大きな責任があると思います。

今日は小学4年生の息子と一緒に来ました。息子も思うようなところがあつたようです。ありがとうございます。

●女性 広島県民文化センターで
こんなに民間の船舶が徴用され、かつ沈められていたとは知りませんでした。また、昔の船員さんは死を覚悟して一般の人を救助艇にまで乗せられたのかと思うと本当に凄く思いました。多数の犠牲者が出たとはいえ、昔の日本人は素晴らしいと思いました。

●男性 中国新聞を見て
先の大戦で最も過酷な状況に置かれたのが戦時徴用商船、輸送船の乗組員であつたと思います。

海上輸送が戦争遂行力の礎であるにもかかわらず、商船・輸送船を丸腰で放り出した海軍の姿勢には苛立ちを覚えます。

今日の繁栄の礎には船員の犠牲があることを忘れてはならないと思います。



橋川正子さんと橋川正道さん

●女性(東京都) 顕彰会のHPを見て

数年前、テレビ番組でこの展覧会が毎年どこかの都市で開催していることを知りました。「いつか見に行きたい」と思いながら、なかなか機会がなく、昨年は隣の神奈川県横浜浜市で開かれていたと知ったのは既に開催が終了してからの事。本当に残念でした。今年はホームページで事前に開催場所を知ることができ、思い切って遠出の旅行ですが広島にまいりました。生まれて初めての広島です。原画の迫力はやはり大きな感情を呼び起こしますね。画伯の作品は船の迫力もさることながら海の重さ水のうねりが恐ろしいほど迫ります。水に落ち、海にのまれて亡くなっていた方々の存在感が海の重さ、怖さによって一層増していると感じました。

画伯の作品集はネットオークションの世界で2万円を超える希少品の

ため、入手をあきらめておりましたが今回この会場で貴顕彰会への寄附金という形で復刻版を入手できることを知る事ができましたのは、実際に出かけたからこそその収穫でした。早速寄附したいと思います。これからもまた、次の世代へとつなぐ活動を続けてください。

●男性 NHKを見て

教育テレビで特集していたのを観て、絵画も存在は知っていました。実物を目にして、体験者の話を聞いて描かれた臨場感を感じることができました。まだ徴用船の被害を知らない人が多いと思うので、この展覧会の存在はとても重要だと思えます。広報などを通じてさらに多くの人があるようになれば良いと思えます。

50代の想い

●男性(廿日市市) 中国新聞を見て

私の次男が現在広島商船高専に在学中です。いづれ船舶に関係する仕事を選択すると思いますが、本日の新聞を見て「戦時徴用船」という言葉に驚きました。次男は学校で習っていたようですが、民間の船が戦争に参加させられていたとは、私は知りませんでした。写真とは違った迫力があり、当時の状況が伝わってくるような気がします。今の日本政府がおかしな方向に進まないよう、こういう事実をもっとアピールすべ

きだと思えます。

●男性 中国新聞を見て

ともすれば、表に出ない戦争の悲劇を実感できた。日本は商船隊が壊滅したので戦争に負けたのです。その事実をもっと知れ渡るよう努力したいし、貴会もご努力してください。陸軍の徴用船は広島宇品にあった、船舶司令部で一括統制運用していました。被害情報はすべて船舶司令部でまとめられ、大本営に送られていました。

こうした催しが広島で開かれたことは、大変意義深いことです。末尾ながら海没し亡くなられた船員、船客、将兵の皆様方のご冥福をお祈り申し上げます。

●女性(廿日市市) ポスターを見て

海戦があつたという事は分かっていました。しかし、徴用船がこれほど戦争に使われているという事に驚き、また悲しくなりました。敵に對抗するために造られた船ではなかったはずでしょう。二度と戦いの中で使われる商船、運搬船等はありませんよう願います。とても考えさせられる絵画展でした。大久保一郎さんに感謝です。

●男性(広島市) 文化センターで

戦時徴用船のことはほとんど知らなかったもので、これらの絵を見て驚きました。非常に貴重な記録だと思えます。初めのうちは、これらは戦意を高揚させるための絵かと思いま

したが、しばらく見ているうちに、これらは反戦を訴える絵として見るべきではないかと思うようになりました。今後、これらの絵を紹介していく時には、あの戦争に対する歴史認識が問われることになるでしょう。大久保一郎さんご自身が、どういう歴史認識をもっておられたか興味のあるところですがよくわかりません。気になったのは、復刻版画集の解説で大東亜戦争という言葉が使われていたことです。(これは、あの戦争を正義の戦争と見做す時に使われる言葉です。)

大久保さんの絵は、今後良い意味でも悪い意味でも利用される可能性がある。あの戦争が正義の戦争だったか、間違った侵略戦争だったのか。海に沈められた船員などは英雄なのか、それとも国によって殺された犠牲者なのかは重大な問題です。私自身はあの戦争は侵略戦争であつたという立場です。戦争体験の無い私が皆様に申し上げるのは僭越なのですが、どうかあの戦争の本質をさらに考えていただきたいと思います。そのうえで大久保さんの絵がこれからの平和のために用いられていくことを願います。そうすれば、これらの絵は日本人だけでなく、かつて日本と戦った国の人々にも受け入れられていくことになるでしょうし、そのことを期待する者です。



内橋孝真さん・こうすけくん親子

60代の憤り

●男性（福山市）中国新聞を見て

叔父が昭和18年12月沖繩本島近海に於いて魚雷攻撃により戦死しました。輸送船の機関士でした。叔父の遺した手紙、葉書はいまだに家にあります。一航海に何割かが撃沈される任務はつらかったことでしょう。今日、そんな叔父の心境を感じたくここに来ました。戦争は外交の延長でありやむを得ないかも知れませんが、輸送船団の被害をこうしてみると、もう少しまともな戦いが出来なかったかと思う次第です。

●女性（広島市）NHKを見て

友人のお孫さんと一緒に、神楽鑑賞に広島県民文化センターに行き、テレビで開かれていると放送された「大久保一郎遺作展」を地下の展示室で見させていただきました。

太平洋戦争での船の徴用によって、多くの船や乗組員の悲劇がなまじく描かれた絵や写真を見て涙しました。

雷撃により棒立ちとなって沈没する船や空爆により炎上する船、それをただ呆然と見ている乗組員の姿。それは、それは、恐ろしく悲しいものでした。それを後世のために絵として残さなければと思った作者の気持ちや、思わずと壮絶な思いがしました。わずかな鑑賞時間ではありましたが、今は戦争のない日本。でも世界ではテロやクーデター、ISへの脅威。なぜ戦争は起こり、人々は互いに殺しあうのか悲しいです。

友人のお孫さんが、一所懸命にアンケートを書いているのを見て、私も何か遺作展を見た感想を書かなければと思ひ筆を取りました。多くの人々の犠牲によって、今、自分が生きていくことをひしひしと感じています。ありがとうございます。

●女性（呉市）中国新聞を見て

ここまで、戦時徴用船のことは知りませんでしたので、貴重な体験となりました。一方的な被害者側だけの視点でなく、一つ一つが事実であり、人間のなしたことである事が、しっかりと伝わってきます。私の父も戦後満州から引き揚げ時、ブルーバード号によって命を助けてもらったことを聞かされて育ちました。父は陸軍従軍中、馬が弾を受けてくれて

自分が助けられたこと等、父の言葉が思い出されます。ありがとうございます。

●女性 友人・知人に聞いて

海上輸送を国の要としてきた日本が、平和を保つように努めていくことが、第2次世界大戦から学んだ大きな教訓であることを、改めて認識しました。戦後70年余りを過ぎた今、また「いつか来た道」に向かいつつある様な不安を感じるこの頃ですが、負の歴史を繰り返さぬように、声をあげていくべきと思います。

70代の怒り

●女性（広島市）NHKを見て

母の兄弟は3人とも若くして戦死されている。18歳から23歳位で。戦争はどんな理由も不要で絶対してはならない悪である。戦後70年経て今また戦争に向かう国になろうとしています。安倍政権はまさに、国民の目をごまかしてあらゆる圧力をかけて、日本を戦争する国にしているといっています。また、原発が必要というけれど電力のためだけでなく、核物質をつくって外国に売るためである。平和ボケしている国民が多いけど、

戦争で尊い命を投げ出された方々や、その家族の苦難を偲び、平和憲法を守り二度と戦争をしてはいけないと思います。一人一人が自覚してあきらめないで、正しい政治をする人や政党を選ばねばならないと思

ます。今の平和は、どれだけ多くの犠牲のうえにあるか、わからなければならないと思います。私は昭和20年4月生まれです。その時広島市内にいなかったけれど、8月6日に広島に原爆が投下されたことにより、たくさんの方々が備北地方に運ばれました。その方たちや死者を処理したり、お世話を母は婦人会の要請で出て手伝いました。そのことにより母は胃がんになり、私は忘れた頃に50歳代で甲状腺がんになりました。母の母乳を飲んでいただけです。でも共に作業した方々は既に亡くなられておられ何の証明も出来ず、原爆手帳はいただけません。かなり進行していましたが、かろうじて命は助かりました。生後50年も経って甲状腺ガンを発症するとは予想できませんでした。今の日本の政府は福島原発事故の処理もできてないのにそれは隠しています。再稼働してはいけないのにやっています。人間は自然と共存する生き方を超えて、便利さと経済ばかり、文明だけを追い求めてきました。国の幸福、国民の幸福、人類の幸せとは…？ あきらめないで、少しでも修正して人間はどうあるべきか、政府はどうあるべきか…小さな事でも変えて行かないと一瞬で人類は滅び地球も滅ぶと云われるこの頃です。今はボタン（スイッチ）一つで地球が滅びます。戦争は絶対してはいけないのです。



山藤貞・浩子さん夫妻。浩子さんの父上は東泰丸で戦没されている。詳しい状況を知りたいと相談があり後日資料を送付した

●女性（広島市） 中国新聞を見て

私の父は船で亡くなりました。私が17年に生まれ父が18年に亡くなり、お母さんから聞かされた話だけで父の最期が大変だった事がよくわかりました。ありがとうございます。神戸で私は生まれました。外国航路の船で軍用船になり兵隊さんが300人乗っておられた話、魚雷に撃たれて2分で沈んだと聞かされました。母も亡くなっていますので、父が呼んだのかもしれない。ありがとうございます。

●男性（島根県） NHKを見て

父をバシー海峡で失っています。（S19・9）昨年兄弟で台湾を訪ね南端よりバシー海峡を望みました。海はどこまでも青く、静かに波が打ち上げて平和そのものでした。父は輸送船で被弾し船と共に没しました。

無事帰還された人より話を聞く機会があり、様子はわかりました。今回見せていただいた絵がその話の裏付けとなりました。いい機会をいただきました。ありがとうございます。

●女性 NHKを見て

旅行中、ホテルのテレビで知り寄らせていただきました。終戦直前に生まれ、自分自身で戦争に関する記憶はなく、自身学ぶことも少なうこれだけの船舶が徴用されていたことも知らずにきてしまいました。絵にする写真とはまた違う恐ろしさを感じます。今またあちこちで内戦など不穏な世の中になり、子、孫たちの今後を思うと心配な気持ちになります。ふたたびこの様な世の中にならない様祈るばかりです。

●女性（広島市） NHKを見て

私の父は昭和17年戦死しました。呉出身で兵学校（海軍士官、陸軍）共合格しましたが、一人息子のため陸軍の方が安全と選びました。しかし17年シンガポールで戦死しました。多くの尊い命が失われました。今日も胸に突き上げてくるものがあります。過去の悲しい歴史を日本の国民が忘れないためにも、日本の企画はとも良いことです。もっと多くの人に見に来てほしいと思います。

●女性（広島市） NHKを見て

今日は、父（フィリピン、マスバテ島にて泳ぎ着いてその後死亡。白

木の箱に手紙がありました。輸送船で出て行ったようです。に何もしてあげられなくて、供養の一つにと大久保一郎先生の心の絵を、と急いで家を出て来ました。本郷よりずっと手を合わして見ていました。お経をあげました。大東亜戦争は最初から無駄だったように思われました。多くの人たちが亡くなっていかけたこと、残念でなりません。こんな戦争はあつてはならない事です。今日は皆様のおかげで、今日生きておりますと申しました。年月が過ぎていまだに涙が出ます。母は戦争があつたから、こんな人生になった。：と申しました。

●女性（広島市） 家族に聞いて

戦時徴用船のことを知りませんでした。私は昭和22年3月、大連港から引揚船に乗って佐世保に引き揚げてきましたが、8歳でほとんど記憶がありません。一緒に引き揚げてきた両親、兄（旧制高校生）も亡くなり、当時のことをよく聞いておけばと思うことです。軍艦だけでなく多くの船と乗組員の方が亡くなられたことに胸がさかれる思いです。知らなかったことは一種の悪ですね。ありがとうございます。

●女性（広島市） NHKを見て

私の父はシベリアで死亡したのでこの遺作展とは直接関係ないと思いますが、すべからず戦争というものを知りたくて来館いたしました。迫

藤田 進さん (広島市・93歳)



戦時中はラバウルやニューギニアに行き、船に乗る。船名がわからないが、船団を組んで沈められた。船が沈んだら、船を助けた。その後、軍に召集された。

乗船していた船も漂流して、助けられた。その後、軍に召集された。

●男性（広島市） ポスターを見て

当時の切迫した戦況が絵画でもって如実に表されている。真実に迫った描写で大変感動しました。当時の船舶乗組員が船と運命を共にし船客等を助けながら奮闘する様子は日本人の古来からの互助の精神を表しており、現在の日本人の鏡となるものである。

●男性 友人・知人に聞いて
 当時の横暴な軍部の暴走を阻止できなかつた体制。国家100年の大計など望むべくもなかつたことを安っぽい精神主義で真剣に乗り切れると思っていたのだろうか。無能無策

80代の嘆き

●男性 NHKを見て
 資源のない日本が、すごい技術力で造った船を戦争で海に沈められ多くの人命を失い、ずいぶん無駄なことをやったものだ。戦争とは何一ついいことはないと心を新たにしたい。話を聞くだけでずいぶん臨場感のある絵を描かれており、ただ感心するのみ、ぜひ後世に伝えると共に多くの人が見れる機会を作っていたきたい。感銘を受けました。



大下喜太郎さんご夫妻（広島市）

私は昭和17年4月1日、病院船「瑞穂丸」に乗船し昭和19年8月14日まで乗船しております。その間の思い出は数知れずあります。
 私は「瑞穂丸」を下船して軍隊に入りました。戦時中はいろんな事に遭遇してまいりました。あの思い出を二度と繰り返さないことを誓います。軍隊は宇品七丁目暁2940気象教育隊に入隊、8月6日原爆に遭い苦しい人生でした。
 （瑞穂丸は、大下さんが下船してから、約1ヶ月後の昭和19年9月21日、米潜水艦の魚雷攻撃により沈没している。）

の上層部の犠牲は、軍、民間人を問わずいつも底辺の人である。この構造は今もなお大差ないと思う。この展示画とともに映像を見て痛感させられました。誠に有意義な企画感謝します。
●男性 友人・知人に聞いて
 1944年12月太平洋戦争。1936年4月呉市生まれ。呉の空襲が激しくなり父（当時海軍工廠勤務、大和に係る）を残し、広島へ移転。1945年8月6日被爆（国民学校）。当時、戦時徴用船の被害は父から一度も聞いたことはなく、始めて悲惨な絵を拝見した。徴用船は丈夫に製造されたものではなく、木船と思われる。軍備（大砲等）はなく空爆、魚雷、機雷によって、多くの方々の尊い命が失われたことにお悔や



記録画展でお手伝いいただいた、元機関長の若宮一三さん、海洋会中国支部の大月四郎さん、露木幹さん（左から）

み申し上げたい。
●男性（広島市）中国新聞を見て
 戦時徴用船に関する資料は海上戦関係資料に比べると極めて少なく、私の父の最期の状況を調査するのに大変苦労した経験があります。特に遭難時の写真、凶画などは殆ど目にしませんでした。今日は大変良い経験ができました。私の父は、日本郵船の崎戸丸に乗務中、昭和19年3月1日に米海軍潜水艦「トラウト」の雷撃により沈没したため戦死しました。この日は私が陸軍士官学校60期生として入校した日でした。京浜地区の空襲で我が家は全焼し思い出の資料は全て焼失しました。たまたま崎戸丸機関長が生存しておられるのを知り、直接崎戸丸の遭難状況を



平田時久・桂子さんご夫妻（広島市）

桂子さんの父上は船舶機関砲第二連隊に所属し、「立山丸」に乗船中に戦死された。「立山丸」の写真を探していると相談があった。神戸の戦没した船と海員の資料館の協力を得て、船影を調査したがなかったので、同型船の船影の資料を送付した。

桂子さんから資料を送って頂き、随分と気持ちが落ち着きました。10月の船舶砲兵隊慰霊祭に参拝する予定です。生存者は少なくなり、遺児も高齢化しましたが頑張る所存です、お礼のお手紙を頂きました。

知ることが出来ました。当時の軍関係者の輸送船に対する意識は低く、輸送船護衛は海軍関係者の間では軽視されていたようです。残念なことでした。非武装の船員が強い責任感で、厳しい戦況に於いて任務遂行されたことが、余り世に知られていないのが残念でなりません。

戦没船員の功績等の調査 事例紹介

本会の事業の一つに戦没船員の功績等の調査があります。先の大戦において戦時徴用船で輸送業務にあたり、尊い命を犠牲にされた戦没船員は分かっているだけで6万643人にのぼり、横須賀市の神奈川県立観音崎公園にある「戦没船員の碑」には浄書した名簿が奉安され、毎年5月中旬の追悼式典で戦没・殉職船員の慰霊を行っています。ご遺族をはじめ親類縁者や関係者の中には、まだ知らない方々も多く、戦没の状況まで知っている方は、さらに少ないといえます。本会は、こうしたご遺族の方々からの問い合わせにお応えし、調査情報の提供を日常の業務として行っています。その中から本号でも事例のいくつかを紹介いたします。

■女性（神奈川県）

大おじが船で亡くなっているが、「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか。追悼式に参列したいのと協賛会員になりたいので資料を送ってほしい。

また、同じ船に乗っていて、戦没された親戚の方も奉安されているかどうかと問い合わせがあった。

（電話）

【回答】

大おじ様は、当会の戦没船員名簿に登録され、「戦没船員の碑」に奉安されています。また、ご親戚の方につきましても、名簿に登録され奉安されています。

第2日丸の遭難状況を調べましたが、詳細は不明で文献では遭難場所がトラック島と推定されています。

当会が厚生省の原簿から書き写した、大おじ様の遭難場所は小笠原沖140海里となっています。

第2日丸の資料と会員加入のご案内を送付します。

■女性（千葉県）

先日、靖国神社へ参拝した際、大久保一郎遺作展のパンフレットを拝見し、貴会の活動を知りました。大変意義の高い活動と敬服いたしました。諸事業の活動お疲れさまです。

私の祖父も戦時徴用船の船長でしたが、被弾、沈没、乗員全員戦死しております。お手数ですが、なにか情報をお持ちであれば、ご教示くださいますようお願い申し上げます。

どこで、どんな最期であったか、平和な現在では想像もつきませんが、何か情報があれば、ほんの少しですが、その時の気持ちに近づくことができるのではと思います。（メール）

【回答】

おじい様は、当会の戦没船員名簿に登録され、昭和46年、神奈川県立観音崎公園（横須賀市）に建立され

ました「戦没船員の碑」に、ご芳名と没年月日を浄書した名簿が奉安されています。当会の戦没船員名簿は昭和40年代、「戦没船員の碑」建立にあたり、厚生省の戦没船員原簿を書き写したものです。この書き写した当会の記録によれば、おじい様は、昭和17年8月5日戦没。乗船船名が「ぶらじる丸」と記されていることから、おそらく本船に便乗していて戦没されたものと思われませんが、便乗者名簿が無いので不確定です。

第5および第8I丸の船籍が宮城県十五浜となっていますが、別の文献では船越港と記されています。おじい様に関する資料を送付します。

【お礼】

ありがとうございます。故人の子に当たる父と共有させていただきました。後日、「戦没船員の碑」へお参りさせていただきます。大久保様のぶらじる丸の絵画を拝見した時、強烈な印象がありました。祖父がその船に乗っていたとうかがい、ただ驚くばかりです。ぶらじる丸は、壮絶な最期であったようで、ただただ安らかに眠るよう祈るばかりです。明日から学習のためにグアム島へ行くので、命日に近海に居ることは、なにかのご縁と感じております。情報の調査に加えて、資料を送付いたします。貴会の活動を末永く継続していただきたいと思います。

終戦記念日献花式

平成28年8月15日、強烈な日差しが照りつける神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」に、芦田昭充会長はじめご遺族、前職および現職役員ならびに評議員、海事関係者ら約40人が参列し、終戦記念日献花式が挙行された。

式典は、例年どおり日本武道館で行われた全国戦没者追悼式の進行に合わせて執り行われた。慰霊碑に献花し黙とうを捧げ、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と安らかなることを祈るとともに海洋永久の平和を誓った。



観音崎公園 戦没船員の碑

海の日清掃・献花式 横須賀海洋少年団

昨年7月24日、横須賀海洋少年団「海の日」行事として恒例の「戦没船員の碑」清掃と献花式が行われた。強い日差しが照りつける猛暑の中、観音崎公園に集まったのは、小2から高3までの横須賀海洋少年団と大和海洋少年団の団員15人と保護者、指導者ら約30人。これに顕彰会と海事関係者が加わって、汗だくになりながら1時間余り清掃した。辺りがすっかり清められると「安らかにねむれ わが友よ 波静かなれ とこしえに」と刻まれた碑文石に全員で黙とうを捧げ、一人ずつ白菊を献花した。

横須賀海洋少年団には、海上自衛隊横須賀地方総監部、横須賀土木事務所とともに、第一回追悼式からご支援・ご協力をいただいている。団員から活動などについて、話を聞いた。



「戦没船員の碑」と周辺を清掃した後、献花式のセレモニーで整列する海洋少年団の皆さん



■長島 崇瑛くん

小5

海洋少年団の活動では、カヤックの練習のとき揺れてたまに酔うけど、海水浴が楽しい。たくさん動くから、おやつがおいしく食べられる。戦没船員の碑のお掃除は、お土産が楽しみです。

■益原 大和くん 中2

入団してから8年くらいになる。この1年くらいは小3くらいの子の面倒を見るのは慣れていますが、言うことを聞かないで自分勝手に行動をされると、危ないので困る。7月30、31日に大会があり、ロープと手旗信号に参



■長島 聖瑛くん

小5



去年の全国大会はいかにかかった。横浜の日本丸に乗って、先端を歩くのは簡単

今年地区大会では、ロープと手旗信号にでる。手旗信号は、数字の組み合わせで文字になっていて、一文字終わったら手をおろす。「いろはにほへと」を覚えるのが難しい。

■益原 出帆くん

小5



全国大会の時に団員のみなどが泊まるのが楽しい。前に横浜の日本丸に泊まった時に、命綱をつけないで船の先端のほうを歩く練習をしたが、渡ってくる間、少し怖かった。



■大地 健斗くん

小5



■岸 遥斗くん

小3

海洋少年団に入っていた同じ学校のりょうくんに誘われて入った。山に登って、お寺でカレーを作った時にルーが足りなくなりました。

指導員の天津地さんが山の下のコンビニまで走って買いに行った。みんなが登った時は30分かかったところを10分で戻ってきたからすごいと思った。



木陰で一休み



■杉山 風沙さん

小2

お兄ちゃんが入っていたので小学校1年生の時に海洋少年団に入った。おそうじは疲れたけど楽しかった。



■杉山 七海さん

中2

海洋少年団には兄が入っていたので小学校5年の6月に入団した。少年団の手帳を確認したら、戦没船員の碑のお掃除に参加するのは、今年が初めて。お掃除は草をいっぱいとって疲れたけど、記念になった。活動はロープが好き。全国大会でロープと手旗信号で満点が取れてうれしかった。



■石井 渚紗さん

高3

学校が忙しいから、活動に参加できるのは1か月に1回くらい。進学予定なので、今年が忙しいこの清掃が久しぶりの参加。新しい団員が増えていて戸惑ったが、前からの知り合いに会えて楽しかった。



汗だくで掃除



■大園 菜月さん

高3

高校卒業後はボランティアで参加したいと思っている。

子が欲しくて入団した。

月2回活動に参加していて、2年に一度ある全国大会のロープや手旗で良い成績が納められるように頑張ってきた。前回の大会では、ロープは満点だったが、手旗信号の読み取りが癖字のため誤答とされて満点が取れなかったことが残念だった。卒団したら、OBとして活動に参加したい。

ご協力
ありがとうございました

横須賀海洋少年団「海の日」行事、「戦没船員の碑」清掃活動に参加した団員の皆さんに、感謝の記念品を今回もたくさんご提供いただきました。子供たちは大喜びで「ありがとう」と声高らかにお礼を述べていました。ご提供いただいた会社、海事団体は次のとおりです。(順不同) ご協力ありがとうございました。

日本郵船・商船三井・川崎汽船・日本船主協会・大日本水産会・日本内航海運組合総連合会・日本海事広報協会・日本水路協会・日本中小型造船協会・日本倉庫協会・東京海上保安部・全日本海員組合・全日本海員福祉センター



提供されたグッズを手に、皆で記念写真

殉職船員遺族援護

ご遺族からのお便り

■織田幸恵さん (広島県)

お世話になっております。7月末に主人の一周忌の法要を行いました。暑い夏の日、まさかの連続、命の尊さ、そして、多くの方に支えていただいたありがたさ...すべてが思い出されました。

私たちにできることを見つけないが感謝の気持ちを忘れずに前を向いて歩んでいこうと思います。

■佐藤亜希さん (青森県)

いつもありがとうございます。3月に4歳になった春輝は、小5のお姉さんの体重を追い越しました。元気に成長しています。

■大竹初美さん (三重県)

いつもありがとうございます。朝晩涼しくなりつつあり、秋を感じる季節になってきました。親子3人元気に過ごしています。

長女は3年生で、ゼミの研究授業では、実習が多くレポートに追われています。

次女は勉強の毎日で、少し疲れています。頑張っています。

■水野真由美さん (愛媛県)

孫も生まれ、楽しく過ごしています。

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成28年7月1日以降、平成28年11月30日までの間に、次の方々に新たに賛助会員、協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■ 賛助会員には、「法人」と「個人」があり、年会費は◎法人賛助会費 10万円、◎個人賛助会費 101万円をお願いしています。
■ 協賛会員は「個人」にお願いしているもので、年会費は103千円です。

新たな賛助会員の皆様(順不同)

- 柴崎 孝光様 (呉市)
- 齋藤 有美様 (川崎市)

新たな協賛会員の皆様

- 森 栄二様 (東京都新宿区)

追悼式献花料 (順不同)

- 河合ハル子様 (横浜市)
- 江藤 政雄様 (和歌山市)

寄付金 (順不同)

- 沼田 昭夫様 (鹿児島市)
- 築地 龍子様 (我孫子市)
- 齋藤 有美様 (川崎市)
- 山藤 浩子様 (広島市)
- 高橋 柳子様 (成田市)
- 金澤 君子様 (知多市)
- 海友会 様 (高知市)
- 吉岡 弘人様 (北九州市)

遺族援護寄付金

- 河合ハル子様 (横浜市)

終戦記念日献花式供花料 (順不同)

- 日本内航海運組合総連合会様 (東京都千代田区)

- 前川 弘幸様 (横浜市)
- 多胡 明美様 (小金井市)

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金 (順不同)

- 吉本 達雄様 (広島市)
- 四方田幸夫様 (愛媛県上島町)
- 山北 篤様 (尾道市)
- 橘川 正道様 (さいたま市)
- 橘川 正子様 (東京都豊島区)
- 室田 昇一様 (広島市)
- 大濱 博之様 (下関市)
- 田中 壮卓様 (広島市)
- 西村 智樹様 (呉市)

寄付金に対する

税制上の優遇措置について (お知らせ)

当会は平成23年4月1日に「公益財団法人」に認定されたことにより特定公益増進法人に該当することになりました。さらに、平成23年10月27日(平成28年10月17日更新)に「税額控除対象法人」の証明を受けたことから、**当会に対する寄付金は、税制上の優遇制度が認められ、確定申告を行うことにより、「所得控除」もしくは「税額控除」が受けられます。** **なお、ここでいう寄付金は、**

賛助会費・協賛会費・追悼式献花料・終戦記念日の献花料および寄付金をさします。 所得税の軽減につながるためぜひご利用ください。 「所得控除」「税額控除」を受けられる際は、当会が発行する「領収証」「公益認定書(写)」「税額控除に係る証明書(写)」が必要になります。 例年11月にお送りしますので大切に保管してください。

①個人の方の寄付の場合

「所得控除」

所得税率が高い所得者の方は減税効果が大きくなります。

寄付金額

上限は年間所得の40%

-2千円=

所得控除額

「税額控除」

小口の寄付にも減税効果が大きくなります。

寄付金額-2千円

上限は年間所得の40%

-2千円=

税額控除額

上限は所得税額の25%

「所得控除」と「税額控除」については、寄付者の所得額や寄付金額によって、選択する控除方法により控除額が変わります。詳しくは確定申告の際に税務署にお尋ねください。

②法人(民間企業等)の寄付の場合

一般の寄付金の損金算入限度額とは別枠で、損金算入ができます。詳しくは、税務署、税理士にお問い合わせください。